

比較家族史学会

## 会報 比較家族史 77

事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F  
(株)毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555  
E-mail:maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222(名義 比較家族史学会)

### 2021年 比較家族史学会 第69回 秋季研究大会のご案内

【日程】 2021年10月30日(土)

【会場】 尚絅大学

【開催方法】 オンライン開催:Zoomによるオンライン形式(定員:300名)

【参加費・申し込み】 無料・要事前申込み(非会員も参加可)

・申し込み:[専用申し込みフォーム](#)(リンクしています)

また、以下のURLからも申し込めます。

<https://forms.gle/BVnXQbwEjNp81eFV8>

・申し込み締切:2021年10月26日(火)

【参加方法】 申込者に大会前にZOOM参加に必要なURL等およびレジューメ  
入手方法を連絡

#### 【プログラム】

09:30~09:40 開会挨拶(会長:小池誠)

09:40~09:45 大会運営についてのお知らせ

09:45~11:30 自由報告 司会 土屋敦(関西大学)

09:45~10:18 白井千晶(静岡大学)

「人工妊娠中絶からみた出生システム:フィリピン、ミャンマー、ベトナムを中心に」

10:20~10:53 翁文静(九州大学アドミッションセンター)

「中国都市部における家事・ケア労働者に関する文献レビュー—資格化・職業化を  
中心に」

10:55~11:28 沈嘉翌(東京大学大学院)

「近世後期畿内農村における女性戸主の増加について—人口危機における村・家・個人  
の存続戦略」

11:30~12:30 お昼休み

12:30～13:00 特別講演 蓮田健（医療法人聖粒会慈恵病院理事長兼院長）

「赤ちゃんの遺棄・殺人を食い止めるには？—『こうのとりのゆりかご』14年を経て見え始めたもの」

13:00～17:05 ミニシンポジウム

テーマ 「<産みの親>と<育ての親>の比較家族史

—①妊娠・出産と出自をめぐる日独比較」 司会 宇野文重（尚絅大学）

13:00～13:10 趣旨説明 床谷文雄（奈良大学）

「予期しない妊娠・出産と母子の保護—匿名出産・内密出産を考える」

13:10～13:40 阪本恭子（大阪医科薬科大学）

「ドイツにおけるベビークラッペの歩み」

13:40～14:10 トビアス・バウアー（熊本大学）

「ベビークラッペから内密出産制度へ—ドイツにおける出自を知る権利の議論を中心に」

14:10～14:15 休憩

14:15～14:45 梅澤彩（熊本大学）

「出自を知る権利の保障と親子の交流」

14:45～15:15 山縣文治（関西大学）

「予期しない妊娠・出産と福祉支援」

15:15～15:35 休憩

15:35～17:05 討論 司会 床谷文雄（奈良大学）

17:10～17:20 閉会挨拶（副会長：山田昌弘）

### 【シンポジウムの趣旨】

本シンポジウムでは、妊娠の事実を他者に知られたくない女性が出産した子を、匿名で他者に引き渡して養育を委ねる方法で、予期しない妊娠・出産に起因する問題の解決を図ろうとする場合について、主にドイツの事情（匿名出産、ベビークラッペ、内密出産等の社会的・法的支援）と日本の事情を比較することにより、妊娠・出産のあり方と、産みの

親から離れて生きる子が成長後に〈産みの親〉(出自)を知る権利について考えることを目的としている。「予期しない妊娠」とは、「様々な事情により、妊婦やそのパートナーが、妊娠を継続することや子どもを産み育てることを前向きに受けとめられず、支援を必要とする状況や状態にあること」をいう(厚生労働省報告書)。この思いがけない妊娠がもたらす危機から逃れる手段としての人工妊娠中絶の問題は、ここでは直接には扱わない。苦境にありながらも妊娠を継続し、出産した妊産婦(母)が社会的支援を受けながら、子を手元で育てる場合、あるいは子を児童養護施設・里親・養親(「わらの上からの養子」を含む)など他者・社会による養育に委ねる場合の問題は、〈産みの親〉から〈育ての親〉への子の育ちの場の移行過程として関連する範囲で扱われる。

本シンポジウムの前の「特別講演」では、熊本市の医療法人聖粒会慈恵病院が2007年に開始した「こうのとりのゆりかご」事業について、現状および今後の展開が示される。この「ゆりかご」のモデルとなった「ベビークラッペ」(ベビーボックス)は日本では〈赤ちゃんポスト〉の名で知られるが、ハンブルクでの赤ちゃん救済活動から始まり、20年余りの間に世界の多くの場所で類似の設備が設けられるに至っている。本シンポジウムの第1報告では、ドイツにおけるベビークラッペの歩みについて阪本恭子(大阪医科大学・哲学)が発表する。

ベビークラッペは匿名による子の預け入れなので、子の出自を知る権利の保障に欠けるとの批判があり、他方で妊婦の安全な出産のための医療的・社会的支援を十分に提供するという観点からも対策の検討が進められ、2014年に施行されたのが「内密出産」制度である。第2報告では、トビアス・バウアー(熊本大学・生命倫理学)がベビークラッペから内密出産制度への動きをドイツにおける「出自を知る権利」の拡がりも視野に入れて論ずる。

次いで第3報告では、梅澤彩(熊本大学・家族法学)が「出自を知る権利の保障と親子の交流」に焦点を定めて、出自を知る権利の意義、法的根拠などについて追究する。

第4報告では、山縣文治(関西大学・子ども家庭福祉学)から「予期しない妊娠・出産と福祉支援」と題して、福祉の観点から本シンポに関わる問題の全体像が示される。以上の報告を踏まえて、妊娠・出産と出自をめぐる問題について全体討論を行う。

(床谷文雄)

【大会運営委員長・委員】宇野文重(尚綱大学・委員長)、梅澤彩(熊本大学)、柴田賢一(尚綱大学)、床谷文雄(奈良大学)、土屋敦(関西大学)、野辺陽子(日本女子大学)、李璟媛(岡山大学)

## 2021年度比較家族史学会総会報告

### 1. 2020年度会計報告

「2020年度決算報告書(一般会計)」および「2020年度決算書(特別会計)」が、会計監査である高井康弘会員と藤井勝会員からの決算書に問題がないという報告を受けて、6月13日開催の理事会にて承認された。

### 2. 2021年度予算

「2021年度予算案」が6月13日開催の理事会にて承認された。

## 委員会報告

### 【編集委員会】

#### (1) 『比較家族史研究』について

第35号を今春に刊行し、現在は第36号の編集作業中である。特集として、2020年春季大会のテーマと連動するMartina Deuchler氏著”The Confucian Transformation of Korea: A Study of Society and Ideology”の部分訳、および解題を掲載する予定である。

### 【企画委員会】

#### (1) 今後の大会について

2022年度春季研究大会の日程、開催場所及び開催方法

日程：6月18日(土)・19日(日)

開催場所：明治大学(大会運営委員長：中島満大)

開催方法：対面開催予定(ただし新型コロナウイルス拡大状況等によっては変更可能性あり)

シンポジウムテーマ：「<産みの親>と<育ての親>の比較家族史」

企画 宇野文重(尚絅大学)

※2022年度春季研究大会は、学会40周年記念講演とシンポジウムテーマにちなんだ写真展(里親家庭・特別養子縁組家族等の写真の展示)を開催する予定である。

## 理事会議事抄録

2021年6月13日にオンラインで開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

### 1. 庶務委員会

#### (1) 2020年度決算と2021年度予算

2020年度決算について説明があり、決算報告が承認された。また2021年度予算について説明があり、予算案が承認された。

#### (2) 会員の入会・退会・種別変更

会員の新規入会者1名について紹介があり、入会が承認された。

#### (3) シリーズ本の学会保管分の移動

シリーズ本の学会保管分の移動について報告があった。

#### (4) 理事の退任

中村真理子理事の理事退任について説明があり、2021年6月21日付で退任することが承認された。

### 2. 編集委員会

#### (1) 『比較家族史研究』第34号 J-STAGE 公開

第34号が3月末に、J-STAGEで公開済との報告がなされた。

#### (2) 『比較家族史研究』第36号特集

『比較家族史研究』第36号特集について説明があり、編集委員会案が承認された。

### 3. 企画委員会

#### (1) 2021年度秋季研究大会

2021年10月30日(土)に全面オンラインにて開催することが承認された。

(2) 今後の大会について

☆2022年度春季研究大会は、会場：明治大学、大会運営委員長：中島満大先生、大会運営委員：宇野文重先生、梅澤彩先生、柴田賢一先生の体制で行うことが承認された。

☆2022年度秋季研究大会は、会場は現時点で未定であるが、中島満大先生、椎野若菜先生を中心に、若手企画「新型コロナウイルス禍による家族研究の困難；事後的検討(仮)」を検討していくことが承認された。

☆2023年度春季研究大会について説明があり、野辺陽子先生を大会運営委員長として日本女子大学で開催することが承認された。

☆2023年度秋季研究大会について説明があり（会場：関西大学、大会運営委員長：土屋敦先生）、承認された。

(3) シリーズ出版

新たなシリーズ出版について、法律文化社から6巻のシリーズとして2022年度の春季大会シンポジウム分より出版されることの説明があり、承認された。